「腹腔鏡下手術について①」

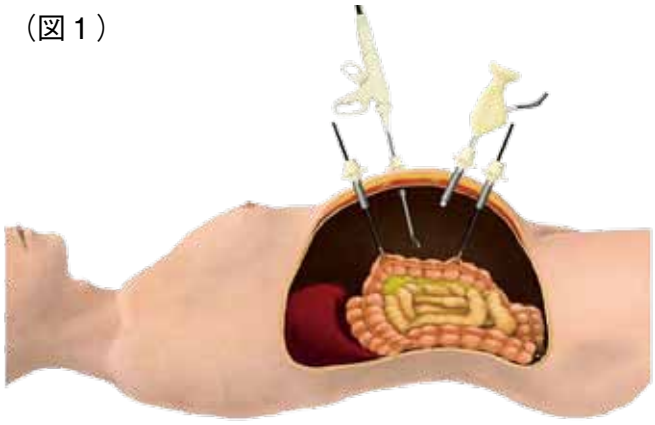
山本組合総合病院
外科科長
大山　健一

お腹の手術をする場合、以前は大きく切って手術をすることが普通でした。しかし、近年は腹腔鏡下手術が急速に進歩しており、大きく傷をつけて手術をすることが少なくなりました。

【腹腔鏡下手術とは】

腹腔鏡というのはお腹の中を見ることができるカメラのことで、原理は胃カメラなどと一緒です。お腹に小さな穴を数ヶ所あけて、そこから細い器具を入れ、テレビモニターを見ながら手術をする方法が、腹腔鏡下手術といいます(図1)。

(図1)



【腹腔鏡下手術の利点と欠点】

この手術の利点は、傷が小さくて済むために痛みが少なく、美容的にも優れていることです。また体への負担も少ないため、早期退院・早期社会復帰が可能となります。一方、欠点としては、手術の難易度が高くなり、通常開腹手術よりも時間がかかることが挙げられます。我々手術する側としては、面倒な手術ということになりますが、患者さん側の利点を考えると、非常に優れた手術方法といえます。

【腹腔鏡下手術の最近の進歩】

10年程前まで、外科で行う腹腔鏡下手術は、胆石の手術のみというのが一般的でした。しかし現在では、胃がんや大腸がんなどといった悪性疾患に対しても、腹腔鏡下手術が行われるようになってきました。たとえば胃がんの場合は、従来のお腹を開ける開腹手術では大きな傷跡が残っていました(写真1)。

(写真1)

従来の開腹手術

一方、腹腔鏡下手術をした場合は、何の手術をしたのか分からないほどに傷跡が残りません(写真2)。どこに傷があるかというと、○印をつけたところに5㎜程度の傷があり、あとは臍(へそ)を切って胃を取り出しています。また以前は胃の手術をすると、1ヶ月以上の入院が必要でしたが、この方法だと手術後10日程で退院できます。同じ手術でも、最近はここまで進歩しているのです。

(写真2)

完全腹腔鏡下手術

このようなことから、腹腔鏡下手術は優れた手術方法であることが、皆様にお分かり頂けたと思います。次回は、最新の腹腔鏡下手術についてお話ししたいと思います。

ご質問やご相談がございましたら、お気軽に**山本組合総合病院**(TEL:52−3111)まで、ご連絡ください。

山羊座(12・22〜1・19)　フットワークが軽くなり、いろいろな分野に興味を感じそう。習い事を通じて、新たな世界が開ける可能性も